

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 393

所管部局	農林商工部	所管課	農政課	担当者名	寺田 利裕
事業名	バイオマスの環づくり交付金事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	バイオマスの環づくり交付金事業			政策体系	223
会計	一般会計	科目	6.農林 - 1.農業 - 3.農業		

1. 事業の概要

南丹市バイオマスタウン構想に基づき、液肥活用技術調査を実施し、液肥利用促進を図る。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

環境にやさしい暮らし、エネルギーの有効活用として、バイオマスタウンの実現に向けた地域の創意工夫による取組を行うことができる。

②事業を実施する必要性

地球温暖化の防止、循環型社会の形成、競争力のある新たな戦略産業の育成、農林漁業の活性化に向け、南丹市バイオマスタウン構想に掲げたバイオマスタウンの実現に向け取組を行う必要がある。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	3,693	3,751	3,334	46,457	24,591	5,000	5,000
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	231	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	1,900	2,200	2,000	25,468	17,585	3,000
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,793	1,551	1,334	20,990	7,006	2,000
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.15	0.90			
人件費	千円	—	—	748	5,314			
事業費総額	千円	—	—	4,082	51,771			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

メタン発酵消化液散布等の食味等調査	11,105,500円
(報償費、委託料)	
事業推進及び研修	2,025,473円 (旅費、需用費)
施設機能強化、機器導入	29,321,040円 (工事請負費、備品購入費)
八木町農業公社への補助金	967,889円
推進事務費	965,580円
過年度国庫補助金返還金	2,071,965円

5. 事業結果の概要

調査研究委託4事業
液肥貯蔵タンク30台導入
排水処理施設機能強化工事1式
液肥散布機1台導入
財八木町農業公社補助金

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 調査研究		
京都大学農学研究科へメタン発酵消化液散布等の収量食味等調査を委託	6月～3月	南丹市八木町内の53農家圃場を対象に収量食味調査を実施。
長崎大学生産科学研究農学研究科へ液肥利用の普及活動及び液肥農産物の普及活動を委託	6月～3月	南丹市八木町内の197農家圃場を対象にアンケートを実施。液肥利用協議会等への参加。
南丹市液肥利用協議会へ液肥利用調査研究及び集落内における液肥利用普及啓蒙活動を委託	6月～3月	液肥利用協議会の開催。現地巡回の実施。先進地視察の実施。
(社) 地域資源循環技術センターへ南丹市地球温暖化ガス排出量算定業務を委託	10月～3月	八木バイオエコロジーセンターを中心とした活動による地球温暖化効果ガス削減量、費用対効果を算定。
(2) 施設機能強化、機器導入		
液肥散布機導入	3月	液肥散布の能力強化。
八木バイオエコロジーセンター排水処理施設機能強化工事の実施	3月	有機汚泥の受入量拡大に対応した排水処理施設の機能強化。
液肥貯蔵タンクの導入、設置	9～3月	30台導入、随時設置
(3) 補助金の交付		
交付金を交付。	3月	バイオマス活用団体1団体へ交付。

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

液肥の利用を促進する南丹市液肥利用協議会の先進地調査研究や大学等との収量・食味等の委託業務を実施した。その結果液肥利用量は着実に増加している。平成22年度についても引き続き事業展開を図っていく。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
国の助成事業内容。
- ②当該事業のアピール事項
バイオマスタウン構想の実現のための施策
- ③反省点、今後の展開・方向性等
家畜排泄物以外のバイオマス活用（木質バイオ等）